

水産試験場創立100周年及び 水産業改良普及事業発足50周年合同記念式典

本年（2003年）は明治36年に創立した水産試験場が満100年，昭和28年に発足した改良普及制度が満50周年を迎える真に「節目の年」に当たり，平成15年11月5日，これも本年に開館した「県民交流センター」で，水産関係者約400人の出席をいただいて，盛大に記念式典が開催されました。

鹿児島県知事（出納長）の挨拶の後，来賓祝辞として溝口県議会議長，岡野漁連会長の挨拶をもらい，試験研究の歩み（前田水産試験場長），普及事業の歩み（野島鹿児島農林水産事務所次長）の報告があり，当日の中心議題であるシンポジウムに移った。

まず，記念講演として，「水産研究の一世紀と今後の展望」と題して独立行政法人理事（前西水研所長）嶋津靖彦氏から基調講演をいただきました。

そして，いよいよパネルディスカッション。

鹿大水産学部の島教授をコーディネーターとして6名のパネラー（中尾笠沙漁協長，小林青年漁業士，谷川水試指定工場主協議会員，石窪消費生活アドバイザー，初木南日本新聞編集局長，古賀水産振興課長）による意見交換が1時間半にわたって行われました。



この中で，水産試験場は養殖，漁業ともにこれまでの振興に大きく貢献してきたことの評価があり，今後も資源回復，食品としての安全安心に係る対応，後継者の育成等に官民一体となって，大学などとも連携して取り組む必要がある。

特に，今後は，県民，消費者に指示される試験研究，普及指導につとめていくべきであることが指摘された。

来年4月には水産技術開発センターが3つの組織を統合して発足するので，今後の試験研究，普及指導に期待するという結びとなった。

夜は，会場を「東急IN」に変えて，記念祝賀会が250人を超える多くの方の賛同を得て，盛大に開催された。

徳重林務水産部長の挨拶に始まり，上田水産学部長，中尾笠沙町長の励ましの言葉をいただき，茂利水産技術者OB会（なぎさ会）会長の乾杯の発声で懇親に入った。

懇親の中で，水産試験場OBを代表して，別府元場長から，試験研究，普及事業の思い出やエピソードの披露もあって，和やかな，意義ある懇談会がもてた。



100周年，新試験場の発足を控え，丁度よい「節目」の年に有意義なイベントとなりました。賛同し参加いただいた関係者に感謝致します。
（水産試験場長 前田和宏）